りくつなケアネット金澤　平成30年度加賀脳卒中地域連携協議会コラボ研修会

日時：平成30年6月12日（火）　19時～21時
会場：石川県立中央病院
参加人数：114人

テーマ：脳卒中地域連携パスを使って生活支援を考えよう
講義：『FIMが解ると生活が見える！』
講師：加賀脳卒中地域連携協議会　副会長
　　やわたメディカルセンター　池永　康規先生
グループワーク：金沢駅西地区の地域資源を掘り起こそう！

本年2月に開催予定でしたが、大雪の影響で延期していた恒例の脳卒中地域連携協議会とのコラボ研修会を開催しました。今回は新装された石川県立中央病院の会議室をお借りし、総勢114名の皆さんにご参加いただきました。多くのご参加、ありがとうございます。
職種も多岐にわたり、地域資源を考えるにあたって、最高の仲間たちに出会えました。まずは池永先生からのFIMの講義をうかがいます。

今回の症例を担当された
専門職の皆さん

今回は、超急性期の石川県立中央病院から回復期の金沢西病院に引き継ぎ、在宅復帰された男性の症例です。自動車運転を希望される方が最近は増えており、金沢西病院入院中にはそのような相談をリハビリスタッフも受けていたとか。また、シニア世代の方だったようで、在宅復帰後の生活に関しても様々なご希望があったようです。

お若い患者様の在宅復帰は通所施設の吟味が必要であったり、家族間の思いの調整が必要だったりと、様々な専門職の介入や退院後を支える医療・介護施設との連携が必要になります。駅西地区の資源として、どのようなものがあるのか、どんなものが必要なのか・・。多職種で検討し、若いスタッフの皆さんに発表していただきました。
実際に関わったスタッフからは、個々に想定していなかった提案もあったようで、皆さんからの斬新なご意見に共感されていました。
幅広い想像力や希望とする妄想は時に大きな夢の入口になりますね。参加の皆さま、遅い時間にもかかわらず、長時間にわたり、ありがとうございました。